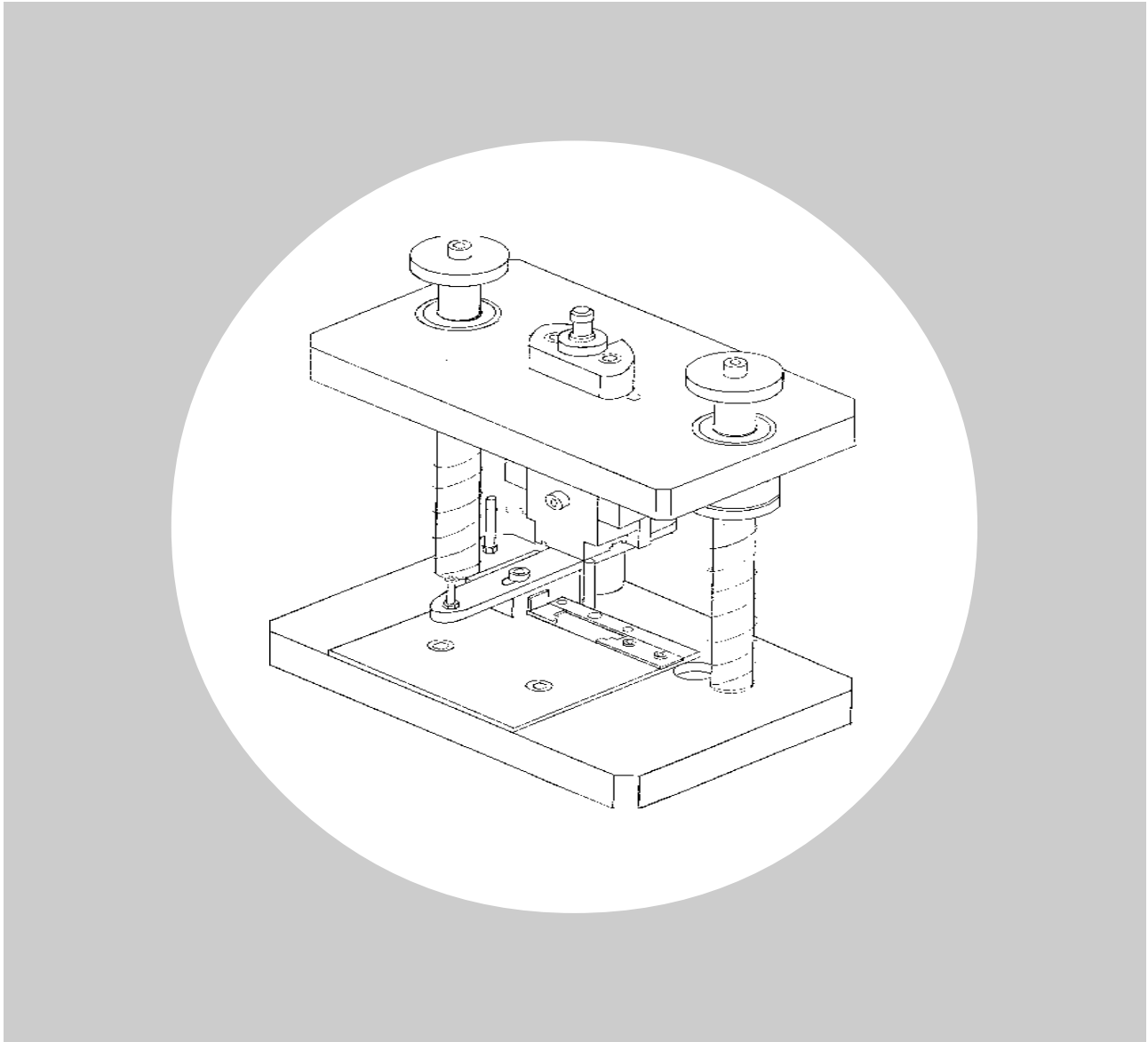
圧接治具

ＤＦ９Ｍ／ＩＤ－ＭＰ

取扱説明書

⚠注意	安全に使用していただくために使用前に、 必ずこの取扱説明書をお読みください。 また、いつでもすぐに読めるように、 この取扱説明書を保管してください。



ヒロセ電機株式会社

目　次

1．型式 1
2．仕様 1
3．治具各部の名称 1
4．操作方法 2
5．メンテナンス 3
（1）日常のお手入れについて 3
（2）消耗部品一覧表 4
（3）消耗部品の交換 5

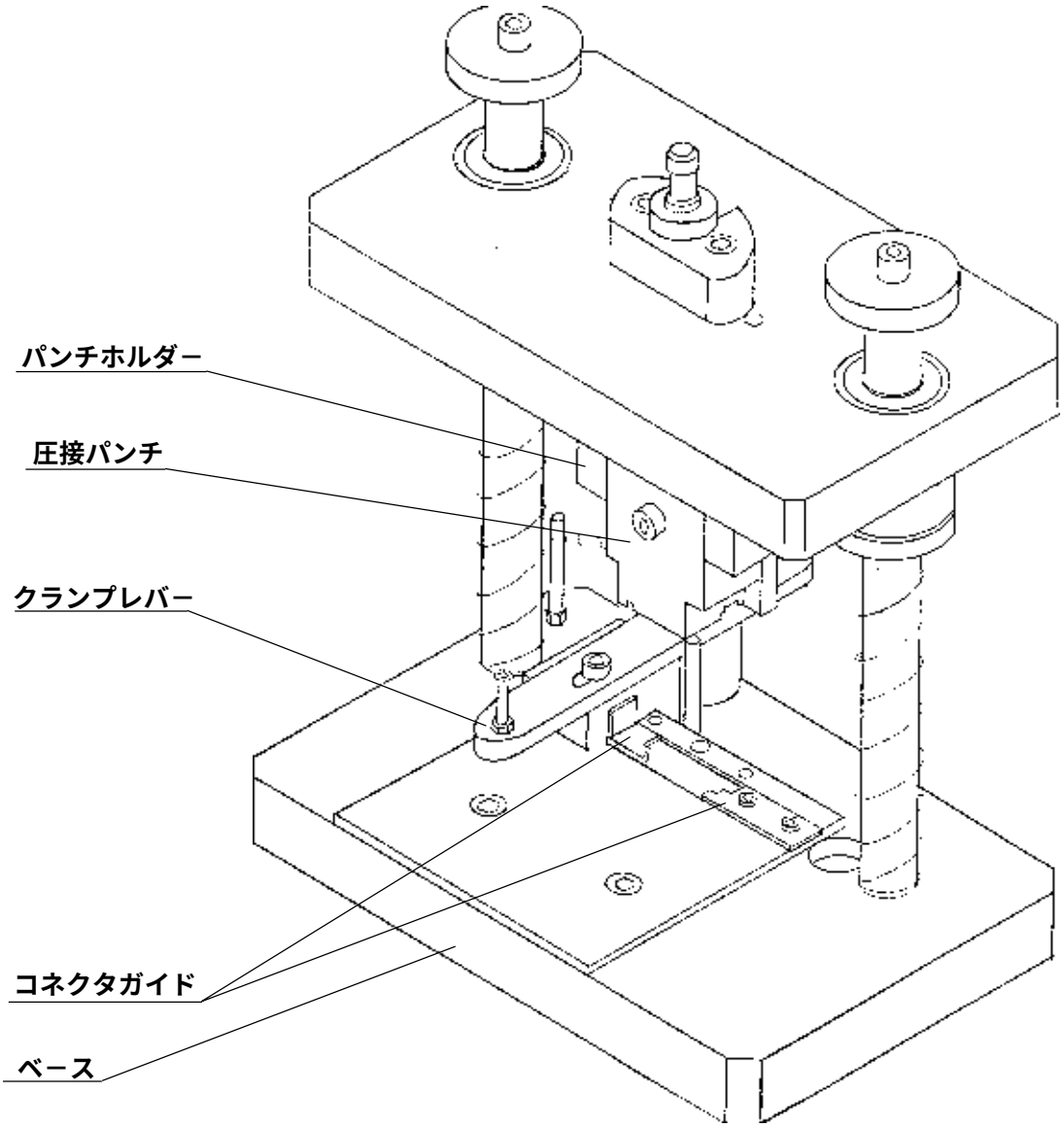
１．　型式

製　品　番　号	HRS No.
ＤＦ９Ｍ／ＩＤ－ＭＰ	ＣＬ　９０２－４５００－１

２．　仕様

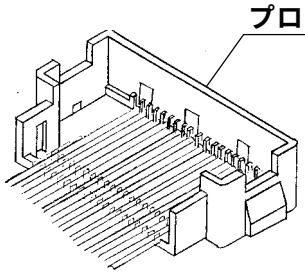
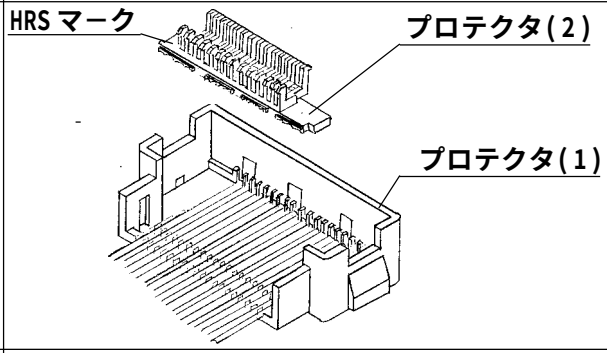
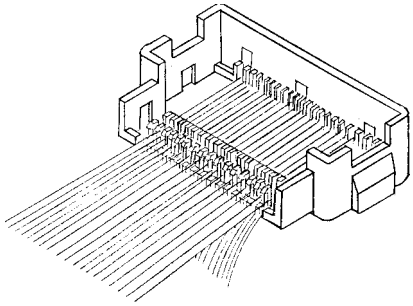
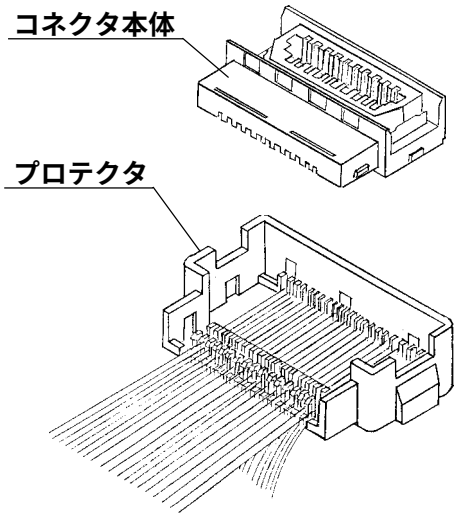
項　　目	仕　　様
適合コネクタ	ＤＦ９Ｍ－３１Ｓ－１Ｒ（ＣＬ５４０－０２３１－３） ＤＦ９Ｍ－４１Ｓ－１Ｒ（ＣＬ５４０－０２３４－１）
適合ケーブル	ＡＷＧ２８　被覆外形０．５８mm
適合プレス	ハンドプレス　ＨＯＳ－７
機能	プロテクターに整線されているケーブルに端子を圧接する。
外形寸法（治具本体）	１８０（Ｗ）×１０５（Ｄ）×１８０（Ｈ）
重　　量（治具本体）	約５Ｋｇ
生産能力	１０秒／１端末　（但し熟練度により異なります。）

３．治具各部の名称

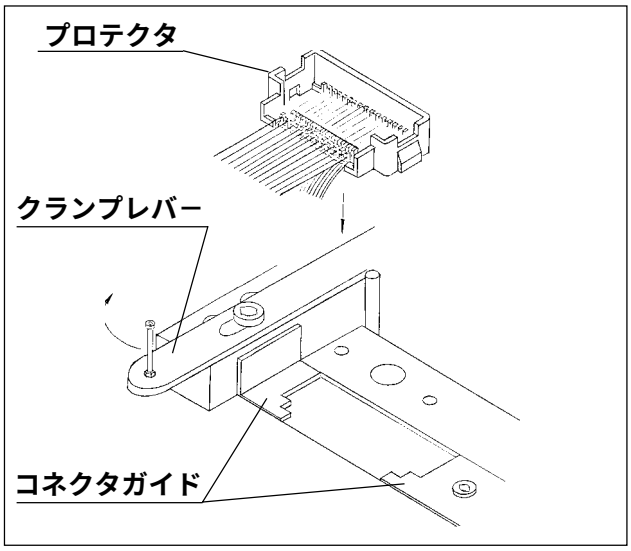


４．ハーネス工程

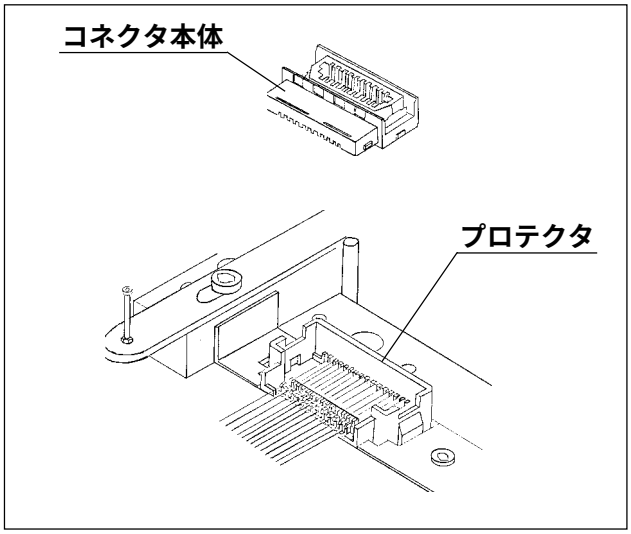
本治具は、工程№４の圧接を行う治具です。予め、工程№１～３を行った後作業を行ってください。
各工程の詳細説明は、個別取扱説明書をご参照ください。

№	工程概略	工程内容	使用工具
1		プロテクタ(1)に適合ケーブルを整線します。	SA702／DF9M (CL903-4508-0) DF9M／CA-MD (CL902-4501-4)
2		整線済みのプロテクタ(1)にプロテクタ(2)を圧入します。	SA702／DF9M (CL903-4508-0) DF9M／CA-MD (CL902-4501-4)
3		プロテクタ(2)に適合ケーブルを整線します。	SA702／DF9M (CL903-4508-0) DF9M／CA-MD (CL902-4501-4)
4		工程№１～３を行ったプロテクタにＤＦ９Ｍ－３１Ｓ（４１Ｓ）－１Ｒ本体を圧接します。 (以下：本取扱説明書にてＤＦ９Ｍ－３１Ｓ（４１Ｓ）－１Ｒ本体をコネクタ本体という。)	DF9M／ID-MP (CL902-4500-1)
5		品質確認 電気検査	

５．圧接作業

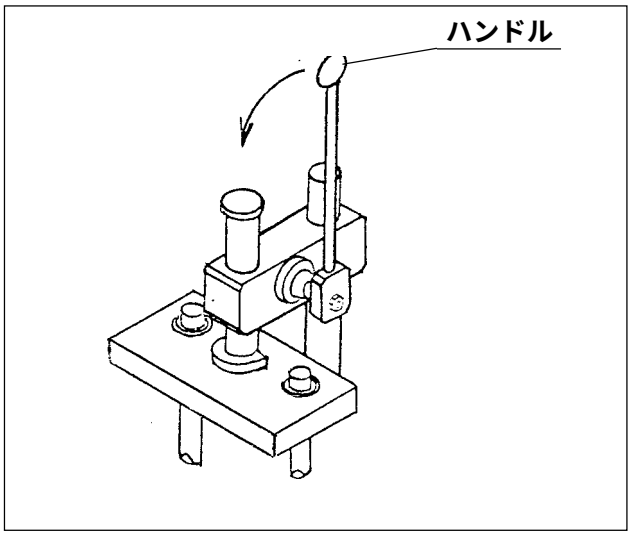


①予め、ケーブルを整線したプロテクタを左図の様にクランプレバーを引いて、コネクタガイドへセットしてください。



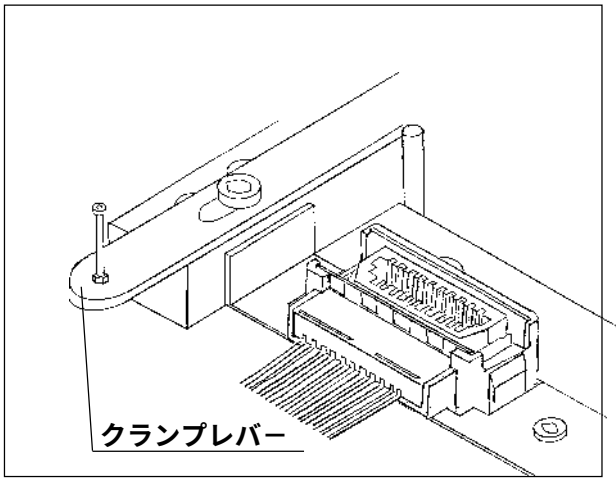
②コネクタガイドにクランプしたプロテクタの上にコネクタ本体をセットしてください。

（注意）コネクタ本体をプロテクタにセットする時、セット向きに注意してください。セット向きが左図と異なったり、傾いた状態でセットすると、不良品となります。



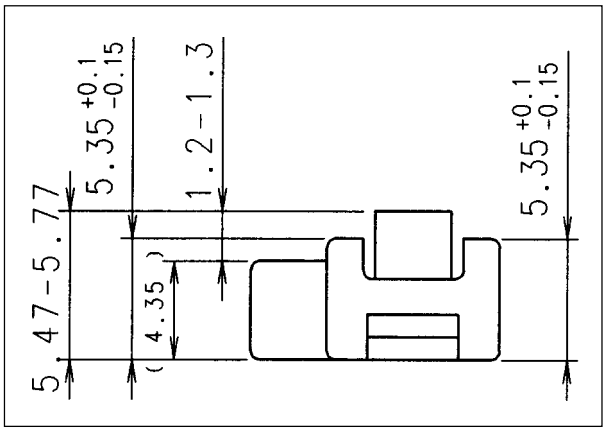
③ケーブルを片手で軽く抑え、左図の様にハンドプレスのハンドルを手前（図中矢印方向）に引いてください。

（注意）ハンドプレスには、ラチェット機構が付いており、ハンドルを完全に押し切らないとハンドルは戻りません。途中で無理にハンドルを戻そうとするとラチェット機構が壊れますのでおやめください。ラチェット機構が壊れると、正常な加圧力が得られなくなり、圧接不良となりますので注意してください。



④クランプレバーを矢印方向に引き、コネクタを取り上げて完成です。

６．品質確認



圧接終了後、ノギス等で圧接ハイトの確認を行ってください。

７．メンテナンス

⚠注意	不慣れによる事故を防ぐため、修理、調整は機械を熟知した保全技術者が本取扱説明書の指示範囲で行ってください。また、部品交換の際は、当社純正部品を使ってください。不適切な修理・調整および非純正部品による事故に対しては、当社は責任を負いません。

（１）日常のお手入れについて

本治具を 日常使用していますと、治具本体のコネクタガイド周辺や、圧接パンチ周辺部にカス等がたまります。これらのカス等が溜まるとコネクタへ付着し、不良の原因となります。溜まったカス等は１日の作業の前後に柔らかい布等できれいに拭き取って下さい。

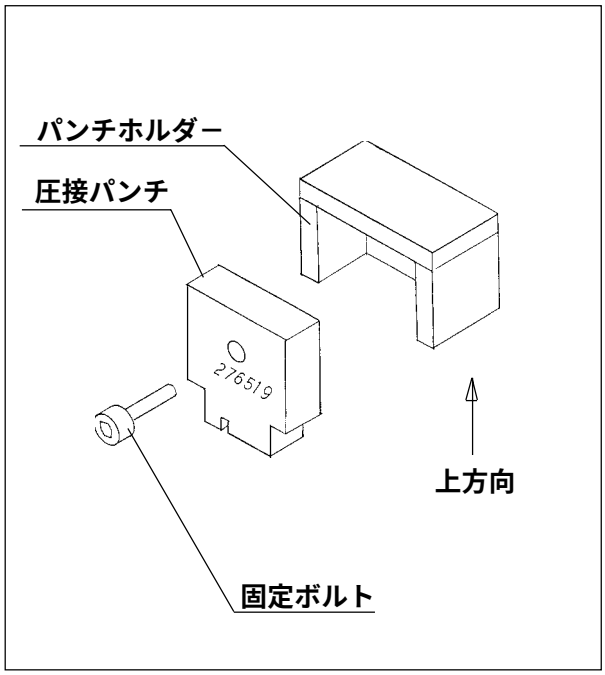
（２）消耗部品一覧表

ご注文の際は、表示 No を確認の上 HRS No. をご指定ください。

№	名　称	製　品　番　号	ＨＲＳ№	表　示　番　号
①	圧接パンチ	ＤＦ９Ｍ／ＩＤ－ＭＰ（６１）	９０２－４５００－１（６１）	２７６５１９

（3）消耗部品の交換

本治具の消耗部品には、圧接パンチがあります。作業中に、消耗部品の磨耗及び破損による不良が発生した場合は、次の様に交換を行ってください。



①圧接パンチの固定ボルトを取り外し、パンチホルダーから圧接パンチを外してください。
②新品の圧接パンチをパンチホルダーに取り付け、上方向に押し付けながら、固定ボルトで締め付けてください。

取扱説明書番号	
TAD-P6560	
発行年月	1996年 4月
改定年月	1996年 6月
版　　数	第　二　版

注意

（1） 本書の一部または全部を無断転載する事は固くお断り致します。
（2） 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
（3） 本書の内容につきましては、万全を期して作成致しましたが、万一ご不審な点や誤り、記載洩れなど、お気付きの点がございましたら各支店、営業所までご連絡ください。
（4） 当社では、本製品の運用を理由とする損失、逸失利益などの請求につきましては、（3）項にかかわらず責任を負い兼ねますのでご了承ください。
（5） 本製品がお客様により不適切に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはヒロセ電機株式会社以外の第三者により修理、変更された事などに起因して生じた損害などにつきましては、責任を負い兼ねますのでご了承ください。
（6） 海外においては、本製品の保守、修理対応をしておりませんのでご了承ください。

ヒロセ電機株式会社　１９９６

ヒロセ電機株式会社

本　　社　〒141 東京都品川区大崎5丁目5番23号

本製品に関するお問い合せは、当社生産技術部迄ご連絡下さい。

生産技術部　〒222 神奈川県横浜市港北区菊名7丁目3番13号
TEL. 045(402)7725　FAX. 045(432)6681

96・4 Printed in Japan